

<論文博士論文の審査基準等>

- (1) 論文博士論文は、当該専門分野における高度な研究成果を示し、学術的貢献をなすとともに、当該専門分野における主導的研究者としての能力を示すものでなければならない。
- (2) (評価基準)論文博士論文は、以下の各項目について、当該専門分野における高度な水準を満たさなければならない。
 - (a) 研究課題(テーマ)の学術的意義
明確な問題意識に基づき、当該専門分野における研究の学術的意義が述べられていること。
 - (b) 研究課題の的確性
研究目的に応じた的確な課題が設定されていること。
 - (c) 研究方法の妥当性
研究を遂行する上で、適切な研究手法が用いられていること。
 - (d) 先行研究との関連
当該専門分野における主たる先行研究を踏まえたものであること。
 - (e) 資料利用の適切性
論旨を展開するうえで、実験結果、調査結果、文献資料などが適切に用いられていること。
 - (f) 論旨の一貫性
論旨が論理的に組み立てられ、一貫して展開されていること。
 - (g) 学術論文としての体裁
表現、表記法などが学術論文として適切であるとともに、当該専門分野の慣例に従ったものであること。
 - (h) 研究倫理の遵守
研究の目的、遂行過程、成果発表のそれぞれについて、当該専門分野が定める研究上守るべき倫理基準が満たされていること。
 - (i) 当該専門分野への学問的貢献
当該専門分野における研究の発展に貢献しうるものであること。
- (3) (論文の分量)論文博士論文は、原則として 20 万字以上の分量がなければならない。
なお、英語による論文博士論文については、日本語 2,000 字を 1,000words に換算することとし、日本語の場合の 20 万字以上と同等の分量がなければならない。
- (4) (その他)各専修において、それぞれの研究分野の学問状況に応じ、上記基本要件以外に追加的な条件を定めることがある。